

学内広報

2023.3.27

no.1568



#WeChange UTokyo



長年お疲れ様でした

令和4年度退職教員アルバム

アト秒レーザー科学研究機構とは?

UTokyo GUCをご存じですか?

令和4年度 退職教員アルバム

お疲れ様でした & ありがとうございます!

例年、年度末に退職する教員情報についてUTokyo Portalで提供を呼びかけ、所属部局から提出があった紹介情報をウェブ上に掲載しています。集まった情報から皆さんのお名前と写真を『学内広報』誌面にも掲載し、先生方の大学へのご貢献を労います。長年にわたる東大での研究・教育活動、大変お疲れ様でした。

＝凡例＝



- 1 所属部局
- 2 氏名
- 3 職名
- 4 顔写真
- 5 専門分野
行に取まらない場合は一部を省略して掲載
- 6 在職期間
中断がある場合は※を付記

法学政治学研究科
大串和雄 教授



比較政治
平成 11 年 4 月～

法学政治学研究科
山川隆一 教授



労働法
昭和 57 年 4 月～※

医学系研究科
赤林 朗 教授



医療倫理学
平成 15 年 6 月～

医学系研究科
狩野方伸 教授



神経生理学
平成 19 年 9 月～

医学系研究科
小室一成 教授



循環器内科学
平成 25 年 1 月～

医学系研究科
佐々木敏 教授



栄養疫学
平成 19 年 4 月～

医学系研究科
神馬征峰 教授



国際保健
平成 14 年 7 月～

医学系研究科
中島 淳 教授



呼吸器外科学
昭和 63 年 10 月～

医学系研究科
矢富 裕 教授



臨床病態検査医学
平成 15 年 3 月～

医学系研究科
山岨達也 教授



耳鼻咽喉科学
平成 5 年 7 月～

工学系研究科
相田 仁 教授



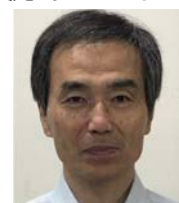
情報通信ネットワーク
昭和 60 年 4 月～

工学系研究科
池内幸司 教授



河川工学
平成 28 年 10 月～

工学系研究科
鹿野田一司 教授



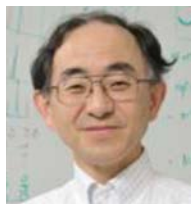
低次元分子性物質
平成 9 年 4 月～

工学系研究科
鈴木宏正 教授



計算機援用設計
昭和 62 年 4 月～

工学系研究科
永長直人 教授



物性理論
昭和 58 年 2 月～

工学系研究科
渡辺紀徳 教授



航空宇宙推進学
平成 5 年 2 月～

人文社会系研究科
下田正弘 教授



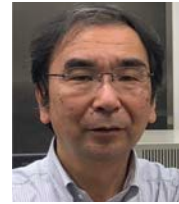
インド哲学仏教学
平成 6 年 10 月～

人文社会系研究科
福井 玲 教授



韓国語学
昭和 62 年 4 月～※

理学系研究科
小暮敏博 教授



鉱物学
平成 8 年 1 月～

理学系研究科
五神 真 教授



光量子物理学
昭和 58 年 6 月～

理学系研究科
武田洋幸 教授



発生遺伝学
昭和 60 年 2 月～※

理学系研究科
寺島一郎 教授



植物生理生態学
昭和 63 年 9 月～※

理学系研究科
山内 薫 教授



物理化学
昭和 60 年 4 月～

理学系研究科
山本 智 教授



電波天文学
平成 5 年 4 月～

農学生命科学研究科
清水謙多郎 教授



生命情報科学
昭和 60 年 4 月～※

農学生命科学研究科
吉田 稔 教授



化学生物学
昭和 61 年 5 月～※



先生方の
詳しい情報は
こちらから→



経済学研究科
高橋伸夫 教授



経営学
昭和59年4月～※

総合文化研究科
トム・ガリー 教授



言語教育
平成17年10月～

総合文化研究科
石田勇治 教授



ドイツ近現代史
平成元年4月～

総合文化研究科
加藤光裕 教授



素粒子論
平成3年9月～

総合文化研究科
久我隆弘 教授



量子エレクトロニクス
昭和61年11月～

総合文化研究科
長木誠司 教授



音楽学
平成9年4月～

総合文化研究科
橋本毅彦 教授



科学技術史
平成3年4月～

総合文化研究科
三浦 篤 教授



西洋美術史
平成5年4月～

数理科学研究科
稲葉 寿 教授



数理人口学
平成8年4月～

数理科学研究科
齋藤秀司 教授



代数幾何学
昭和57年4月～

新領域創成科学研究科
藤原晴彦 教授



分子生物学
平成元年4月～

情報理工学系研究科
中田登志之 教授



ソーシャルICT
平成27年4月～

情報理工学系研究科
森 武俊 教授



看護理工学
平成7年4月～

情報学環
吉見俊哉 教授



社会学
昭和62年7月～

地震研究所
小屋口剛博 教授



数理火山学
平成3年11月～

地震研究所
山野 誠 教授



固体地球物理学
昭和61年4月～

東洋文化研究所
高橋昭雄 教授



アジア経済論
平成8年4月～

社会科学研究所
佐藤岩夫 教授



法社会学
平成12年10月～

社会科学研究所
グレゴリー・ノーブル 教授



行政学
平成13年4月～

社会科学研究所
平島健司 教授



比較政治
昭和57年4月～

生産技術研究所
臼杵 年 教授



先進機械加工学
平成29年8月～

生産技術研究所
野城智也 教授



プロジェクト・マネジメント
平成10年4月～

生産技術研究所
山中俊治 教授



デザイン・エンジニアリング
平成25年4月～

史料編纂所
榎原雅治 教授



日本中世史
昭和58年4月～

史料編纂所
松井洋子 教授



日本近世史
昭和60年4月～

定量生命科学研究所
多羽田哲也 教授



神経生物学
平成6年10月～

宇宙線研究所
木村誠宏 准教授



低温工学
平成31年4月～

宇宙線研究所
手嶋政廣 教授



高エネルギーガンマ線天文学
平成元年11月～※

物性研究所
勝本信吾 教授



量子物性物理学
昭和61年7月～

先端科学技術研究センター
平尾雅彦 教授



ライフサイクル工学
平成8年1月～

超高速で動き回る電子をアト*秒パルスで捉えろ!

アト秒レーザー科学

研究機構とは?



The University of Tokyo
Institute for
Attosecond Laser Facility

<https://i-alfa.u-tokyo.ac.jp>



2022年11月、総長室総括委員会の下にアト秒レーザー科学研究機構が設置されました。極めて短い時間に起こる現象を解き明かすための光源を擁する施設の実現を目指して設置された全学組織です。機構長を務める山内薫先生に、アト秒科学とは何か、機構が目指す施設の概要、今後の青写真などについて紹介していただきました。



アト秒レーザー科学研究機構長
山内 薫 (理学系研究科教授)

電子の動きをリアルタイムで追跡

近年、レーザー技術が進展し、2018年ノーベル物理学賞につながった「チャープパルス増幅」のおかげで、フェムト秒領域の極めて短い時間幅で非常に強い光を出せるようになりました。そのフェムト秒パルスの高次高調波を発生させることによって、100アト秒を切る時間幅のパルスを出すことも可能となりました。このアト秒光パルスを使えば物質中の電子の動きをリアルタイムで追跡することが可能となるため、物質科学が大きく進展すると期待されます。

物質に光を照射すると、まず物質中の電子が動き出します。その動きは非常に速く、フェムト秒パルスを用いたポンプ・プローブ実験によってコマ撮りをして電子はすでに動いてしまっているので、観測することはできません。しかし、アト秒領域のパルス光を用いればそれが可能となります。アト秒光パルスの波長は軟X線から極端紫

外光の領域です。特に、「水の窓」と呼ばれる2~4ナノメートルの波長領域では、水が透明になるので、細胞内の微小な構造体の顕微イメージングが可能となります。先端的なアト秒レーザー光源やアト秒自由電子レーザー光源によって生成されるアト秒光パルスは強度が高く、シングルショットで顕微イメージング画像を計測することができるわけです。

アト秒科学の進展には、様々な分野のユーザーのためにアト秒レーザー光を安定に供給する光源施設が必要です。そこで構想されたのがアト秒レーザー科学研究施設 (Attosecond Laser Facility: ALFA) です。ALFAでは、ユーザーがアト秒レーザー光源を利用して、様々な実験ができる環境を用意します。また、ユーザーが取得した実験データの解析やシミュレーションなどをサポートするサービスを提供します。

この構想は、東大が理化学研究所の協力を得て2008年頃に生まれました。以降、日本学術会議「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」の重点大型研究計画や、文部科学省「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップ」に三度にわたり高い評価で採択されましたが、計画遂行のための予算はまだ確保されていません。今年度、ミッション実現加速化経費として運営費の一部を確保できましたが、できるだけ速やかに施設整備と設備のための予算を確保することが喫緊の課題です。概算要求によってALFAを確実に実現するために発足したのがアト秒レーザー科学研究機構 (Institute for Attosecond

Laser Facility: I-ALFA) です。当機構は、総長室総括委員会の下、学内9部局の賛同を得て昨年11月に発足しました。

設置場所はKEKつくばキャンパス

ALFAは全長140mほどの線形加速器をもつアト秒自由電子レーザー光源と三つのアト秒レーザー光源を擁する施設です。高エネルギー加速器研究機構 (KEK) と東大が連携し、KEKつくばキャンパスに設置する方向で準備が進められています。令和6年度より施設整備費と設備費を確保できれば、速やかにALFA建設に着手し、令和8年度からユーザー利用が可能となるよう施設を整備する予定です。そして、ALFAが全国共同利用・共同研究拠点として認められることを目指します。3月には施設実現のための支援を募る目的で東大基金の寄付プロジェクトを開始しました。また、様々な分野の企業にコンソーシアム“Friends of ALFA”への参加を募る予定です。

私は今年度で東大を定年退職しますが、4月からは特任教授としてALFAの設立に尽力します。ALFAが将来の先端研究を担う国際的リーダーを育成する場となるとともに、先端光源技術を発展させる場となるよう努力して参ります。



ALFAのイメージ

©東京大学建築学専攻 Advanced Design Studies

*アトは 10^{-18} 、フェムトは 10^{-15} 、ピコは 10^{-12} 。1アト秒とは0.000 000 000 000 000 001秒のこと。



海外の学生と東大生がともに学ぶ1~2週間 UTokyo GUCを ご存じですか？

グローバルキャンパス推進本部が提供する海外学生向けの短期受入プログラム、UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)。東大初の全学的なサマープログラムです。海外の大学生、そして東大生も参加することができます。3年目を迎える2023年度のプログラムでは、初めて対面コースが提供されることとなりました。



www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/guc.html

初の全学サマープログラム

今年で3年目を迎えた海外学生向けの短期有料教育プログラム、UTokyo Global Unit Courses (UTokyo GUC)。世界中の学生に東京大学で行われている講義を体験してもらい、優秀な学生の獲得にもつなげたいとの思いから、東大初の全学的なサマープログラムとして2021年に開講しました。グローバルキャンパス推進本部が提供するUTokyo GUCの対象者は、海外の大学生と東大生。初年度は延べ88人、2022年度は延べ159人が受講しており、2023年度はさらに多くの受講者を迎えらることを期待しています。コロナ禍のため、これまではオンラインで開催されてきましたが、2023年度はオンラインとオンデマンドに加えて、対面でも行われます。

6月から7月に開講するのは、全部で12コース。東アジアの法の発展や現代日本政

治、そして代数幾何学や人工知能まで多岐にわたる授業が英語で提供されます。プログラムは1週間(90分授業×5回)または2週間(90分授業×10回)で構成され、受講修了者にはグローバルキャンパス推進本部が発行する修了証と東大生の国際総合力認定制度の活動に認められる「グローバル・ユニット」が付与されます。この他に日本語学習クラスも3コース用意されています。

世界中に東大のファンを増やす

UTokyo GUCの特徴は、各分野の第一人者である専任教員がそれぞれの専門科目を教えるという点。日本の文化を学ぶことに焦点があてられていることが多い、他大学のサマープログラムとの大きな違いです。通常の講義と同じ、質の高い授業を経験してもらうことで、世界中に東大のファンを

増やしていきたいとの期待もあります。1クラス20人くらいまでの少人数制で、ディスカッション中心の授業は、教員やクラスメイトと深く交流することができると好評を得てきました。うれしいことに、GUC受講後に東大の大学院に進学した受講生も現れ始めています。

UTokyo GUCの受講費用は、オンラインとオンデマンドコースは1ユニット50,000円、対面コースは150,000円(複数受講すると割引あり)です。東大生はこの10分の1の費用で受講できます。日本にいながら世界中の優秀な学生とともに学ぶ経験が、留学への足がかりになるかもしれません。

世界中から優れた学生が参加するGUCを担当することは、教員にも大変刺激的な経験です！
担当副学長・矢口祐人



2023 UTokyo GUC プログラム

コース名	教員
Law in Transitional East Asia	松原健太郎 / 法学政治学研究所
Capitalism and the Senses	久野愛 / 情報学環
Contemporary Japanese Politics	マッケルウェイン・ケネス・盛 / 社会科学研究所
Dilemmas of Development in Asia	佐藤仁 / 東洋文化研究所
Group Theory and Its Applications	伊藤由佳理 / IPMU
Science of Light	岩本敏 / 先端科学技術研究センター
Sustainable Urban Management	栗栖聖 / 工学系研究科
AI for Understanding Human Intelligence	長井志江 / IRCN
Early Language Acquisition	辻晶 / IRCN
AI and Social Justice	板津木綿子 / 情報学環
Sustainability, Social Justice and Resource Management	石原広恵 / 新領域創成科学研究科
Writings About Japan	矢口祐人 / 情報学環
Japanese Language Courses (3コース)	

対面授業では研究体験やエクスカージョンも予定されています。



2022年にオンライン開催された、林香里教授(情報学環)による日本のジャーナリズムとメディア論の授業の様子。



YouTubeのUTokyo GUCチャンネルでは、GUCアシスタント(TA)の学生さんによる紹介動画(画像)のほか、講師の先生方自身によるコース紹介動画も多数公開しています。

Student Voices



Ms. Ruixin Huang
University of
Malaya

I appreciated how the instructor provided the schedule for each day beforehand, making the whole learning process clearer. I also quite enjoyed the way we could talk to different people in different groups.



Mr. Marco Lepe
University of
California,
Berkeley

The teachers were excellent. The course content was very insightful, creative, and relevant. And my fellow classmates were thoughtful and kind, which made taking the classes very enjoyable.

教養教育の現場から

第56回

リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

環境ビジネスの実践者と具体的に学ぶ

／全学自由研究ゼミナール「Road to 2050:グリーンビジネスの方法論」

環境エネルギー科学特別部門
客員教授

吉高まり



——吉高先生は、気候変動分野を中心とする環境金融コンサルティング業務に長年従事してこられたんですね。

「はい。2009年に慶應義塾大学の環境系の講義に呼ばれ、30か国以上で関わった排出権ビジネスの話をしたのを機に、大学院の授業を受け持ちました。そこで知り合った小林光先生にお声がけいただき、今年度から駒場で授業を始めました。環境ビジネスの第一線で活躍するゲストの話を題材に議論を進め、最後に学生たちが自分の環境ビジネスを提案するという内容です。環境への関心が強く、環境分野で起業を志す受講生ばかりでした」

「SDGsネイティブ」を対象に

「東大では1年生が相手で、そこに魅力を感じました。いまの若い人は、幼い頃から環境や社会の問題に関心が高いSDGsネイティブ&デジタルネイティブ。彼らが環境ビジネスを進めれば可能性は大きく広がるはず。旧世代があまり手がけていない環境ビジネスは若者にとってやりがいがあるもの。環境問題がコストでなく収益を生むこと、金融の世界が変化しつつあることを教えています」

——ゲスト講師はどんな人でしたか？

「一人は、CO₂の見える化サービスを展

開するスタートアップ企業ゼロボードの渡慶次道隆さん（東大工学部出身）。近年は情報開示が不十分だと金融機関の融資を受けにくく、企業は事業に関わるCO₂排出量を示す必要に迫られます。生産量や電力消費量といった企業の活動量をクラウドに入力することでサプライチェーン全体の排出量を算定して提供するゼロボードは、2021年の創業ですが、従業員数は100人を超え、導入社数は2,200以上。20億円もの資金調達に成功したことに学生たちは驚いていました」

生物多様性保全の情報開示も

「もう一人はキリンホールディングスCSV戦略部の小此木陽子さん。キリンは2010年に生物多様性保全宣言を発表しました。気候変動の情報開示ではTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みが使われますが、自然資本の件でも同様の枠組み作りが進んでいます。たとえば「午後の紅茶」を作るのに自然環境や生物多様性にどの程度依存しているかを示すわけです。定量化が難しい生物多様性の問題をビジネスに結びつけて考えるのは、まだ少し難しかったようです」

——学生のプレゼンではどんな案が？

「スタートアップのピッチを模し、収益

性を考慮することも求めました。企業、市民、自治体を巻き込む生分解性プラスチック循環ビジネス、カーボンニュートラルを目指す中小企業対象のマッチングサービス、環境を守る事業が評価されるプラットフォーム、繁殖力が強く生態系バランスを崩しがちな竹を粉にして肥料や素材に使うという竹資源地域循環など、どれも練られていて驚きました」

「今回、ゲスト講師以外にも、田中良先生がオブザーバー参加したほか、COP27の会場で知り合った環境NGO（Climate Youth Japan）の学生にも話してもらいました。ゲストの皆さんや受講生のネットワークが広がるといいなと思います」

「私は、途上国を中心に30か国以上を訪問してグリーンビジネスの組成に携わった経験を活かし、三菱UFJリサーチ&コンサルティングのフェローとして活動する一方、金融庁サステナブルファイナンス有識者会議のメンバーを務め、自ら設立した一般社団法人パーチュデザインで地域創生の仕事もしています。サステナビリティの視点は教育にも政治にも地域にも活きます。具体的な事例を示せると共感を生みます。日本を変えたいと思う若者をエンカレッジする授業を続けます」

●授業の内訳

1	最近のエコビジネス情勢について
2-3	「GREEN BUSINESS」講義（工学的側面、法的側面、経済的側面）
4	「GREEN BUSINESS」講義（企業の側、金融の側）
5	スタートアップ企業の講義&討論
6	エネルギー系エコビジネスの講義
7	エネルギー系エコビジネスの討論、COP27からの帰国報告
8	グループワークの中間報告など
9-10	リサイクル系ビジネスの講義&討論
11-12	生物資源系ビジネスの講義&討論
13	学生によるプレゼンと講評

授業は、吉高先生と小林光先生（環境エネルギー科学特別部門客員教授／1554号本欄に登場）の二人によって行われました



11月3日に行われた渡慶次さんのゲスト講義。当日の様子紹介が https://www.wantedly.com/companies/company_6329689/post_articles/451700 に



↑参加者一同（左端は小林先生で右端は田中先生）
→教科書となった書籍『GREEN BUSINESS』（木楽舎、2021年）



いちょうの 部屋

学内マスコット放談



今回のゲスト **ことだま〜ず** バリアフリー支援室マスコット



黄色さんは車椅子ウイリーが得意。青さんは口を四角に開いて笑うのが特技

いちょうくん 黄、ピンク、オレンジ、緑、青とカラフルな5人組だね。スーパー戦隊シリーズを意識？

ことだま〜ず 2004年に発足したバリアフリー支援室の広報主任を2013年から務めています。そろそろゆるキャラが欲しいという声が学生サポートスタッフから出たので、公募を行い、複数の候補から投票で選ばれたのが私たちでした。原画を描いたのは支援室の中津真美先生で、ピンクさんは手話、緑さんは白杖、黄色さんは車椅子と、障害のタイプにゆるやかに対応しています。支援の基本はコミュニケーションであるとの思いから、ことだまくんという名前がつけました。

い そういえば、昔は4人組じゃなかったっけ？

こ 名前を見た学生スタッフから「女の子いないの？」という声が上がって、2019年にリボンが好きなオレンジさんが仲間に加わり、名前も「ことだま〜ず」に改めたんです。特に性別はないんですけど。

い 学生スタッフの声を大事にしてるんだね！

こ 毎年約150人の学生が登録し、聴覚障害のある学生が受講する講義をリアルタイムで文字化したり、視覚障害のある学生が読む本や資料を電子データ化したりと、障害のある構成員の支援を日々行なっています。東大のバリアフリーを推進する主役たちです。

い じゃ、ことだま〜ずはどんな活動してるの？

こ 支援室のリーフレット、オープンキャンパスで高校生に配るクリアファイルやシール、月に2回の「手話でしゃべランチ」(オンライン)にも登場して広報活動に動んでいます。あと、障害の状況によっては、先生の声が聞きやすい席や移動しやすい席を教室に確保して優先席シールを貼ることもあって、そのシールにも大きく登場して目印になっているんですよ。

い へー！バリアフリー支援室の特徴というの？

こ 他大だと障害学生の支援を謳うことが多いんですが、東大では学生だけでなく障害のある構成員全員を支援の対象にしています。室員の中に障害のある当事者が常に複数いること、障害は個人の側ではなく社会の側にあるという考え方(障害の社会モデル)を発足当初から採用していることも大きな特徴ですね。

い だから「障がい」や「障害」じゃなく「障害」なんだね！最後に、ことだま〜ずのライバルは？

こ ズバリ、同じ建物にいる運動会のイチ公です！体の線のように細くなが〜〜〜がんばります！

専門知と地域をつなぐ架け橋に

FSレポート!

第23回

工学系研究科修士1年 **徳山 想**

地に足をつけ、着実に

羽田空港を朝7時に発ち、宮崎空港へ。JR日豊本線で日向市駅まで北上し、そこから車で90分。正午頃、ようやくたどり着くのが宮崎県東臼杵郡諸塚村です。

林業と椎茸が有名な人口1,400人の山村では、広葉樹と針葉樹で構成されるモザイク林が広がり、世界農業遺産に認定された小規模多品種型の農業が営まれています。



晴れの日のモザイク林は本当にきれいです！

6月上旬のオンラインミーティング初回。諸塚村企画課の方が発した「学生には地に足のついた『使える政策』を提案してほしい」という言葉から私たちのFSは始まりました。「地域の最優先課題は、人口増加策ではなく人づくり」「学生のスケールでできることは大抵諸塚村でもできる」といった言葉に多少面食らいながらも、理念先行ではない着実な実践を念頭に一年間活動してきました。

11月の現地活動を経て、私たちは「村での暮らし/日常」「素材/プロセスが見える」「パワフルな人との交流」といった諸塚の魅力と同世代に広めることを目標に定め、「観光しない旅」というキャッチコピーのもと、ツアーを企画しました。暮らしがテーマのAコースでは、ほぼ自給自足の農家の方の民宿に泊まり、農作業や料理の体験を、木材がテーマのBコースでは木材加工場見学のほか、村の工芸品「めんば」の制作を、それぞれ



曲げわっぱのような「めんば」 「そこにある暮らし」への制作風景

っていきような体験だった」といった言葉を、諸塚村観光協会の方からは「今後『観光しない旅』という切り口を取り入れていきたい」という言葉をいただくことができました。一方でツアー翌日に開催された現地報告会では「人口減少に伴う課題にも取り組んで欲しかった」との指摘もいただき、自分たちの力不足を感じる瞬間もありました。

3月に開催される最終報告会をもって、私たちの諸塚での活動は一旦終了となります。地域内で自己完結せず、点から線、面へと進化する「地方創生」を。企画課の方の言葉が実践できるよう、今後の進路にかかわらず、各々なりの「点」となり「線」となって、諸塚とつながる人材へ育っていかれると思います。

※メンバーはほかに内谷太亮(文一2年)、鈴木月乃(文三2年)、矢野葉々絵(農学生命科学研究科修士1年)

ワタシのおシゴト 第202回

RELAY COLUMN

本部産学連携法務課
管理企画チーム 中野まさき

公正・透明・信頼で産学をサポート

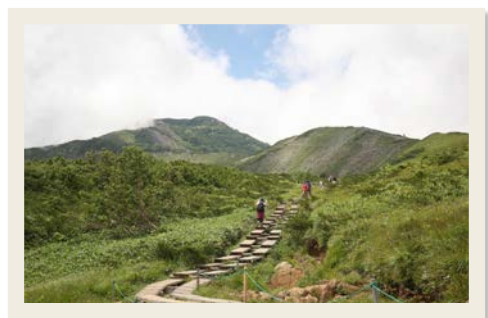


本郷キャンパスの南端にいます

3年間の学振出向を経て、昨年4月から利益相反管理と安全保障輸出管理支援室の庶務を担当しています。利益相反マネジメント委員会の運営、産学連携活動に関する情報収集や問い合わせ対応、安全保障輸出管理支援室の定例会や研修会の運営、システム登録等です。良いチームワークで取り組めていて、チームの中井さんに感謝です。

留学生や外国人研究者の選考や受入業務が続いたので、利益相反管理の業務は新鮮ではあったものの、当初はわからないことだらけ、冷や汗の連続でした。利益相反の概念、状況、関係性を理解するのが時にとても難しく感じ、相関図を書いたり、規則を読み返したり、周りの方に助けて頂きながら日々勉強です。

業務にはだいぶ慣れてきましたが、知れば知るほど、利益相反の管理（マネジメント）は、安心して産学連携活動を推進するために重要な業務だと実感します。面白さも発見しつつ、やるべきことが沢山あることに気付きはじめたこの頃です。



箱根や長野辺りでのんびり山さんぽ

得意ワザ：休日、か細く続くホットヨガとバイオリン
自分の性格：決めるのが苦手。でも最後はやってみるかも
次回執筆のご指名：柴崎亜弥さん
次回執筆者との関係：教養勤務からの友人。ヌン活仲間
次回執筆者の紹介：前向きで頑張り屋。笑顔が素敵♪

ぶらり
構内ショップの旅

第13回

焙煎所カフェ @本郷キャンパス の巻

珈琲とティラミスのマリアージュ

昨年3月に東大病院の南研究棟1階にオープンした「焙煎所カフェ」。店名が示すように、カウンターの奥にある機械で毎朝コーヒー豆を焙煎しています。コーヒーの味わいは、深めとフルーティーの2種類。一杯ずつ丁寧にハンドドリップされたこれらのコーヒーとスイーツ、そしてサンドイッチやカレーなどを楽しむことができるカフェです。お店の一押しが、コーヒーとのペアリングを考えて作られたという「ティラミスタルト」(440円)。深めの味わいのコーヒーとの相性をより良くするため、今年1月にリニューアルしたそうです。「コーヒーを浸したスポンジとマスカルポーネの層に、チョコレートガナッシュの層を加えました。ぜひ一度試してみてください」と話すのは店長の山田優果さんです。



店長の山田優果さん

和菓子も充実していて、上野の有名和菓子処「あんみつみはし」のあんみつや、あんバターを使った「あんバターきな粉トーストサンド」、GINZA芭蕉堂のわらび餅などを食べることができます。

食事系で人気なのが、チキン、レタス、トマトとアボカドを挟んだクラブハウスサンド (693円)。また辛みを抑えた3種類のカレー（豚の角煮、レモンクリームチキン、ガーリックシュリンプ）もあらゆる年齢層に好評だそうです。

ゆったりと静かに過ごしたい時は、廊下を隔てた奥の部屋へ。電源コンセントがあり、窓からは中庭の景色を眺めることができます。東大病院の会計待ち番号が表示されるモニターもあるので、診察後に一息つくのもいいかもしれません。目指すお店の雰囲気は「アットホーム」だと話す山田さん。「気軽に来ていただけると嬉しいです。この場所が人と人がつながる地域交流の場になるといいなと思っています」



営業時間●
8時～20時
定休：祝日

↑一番細かい粗さで挽いたコーヒー豆がたっぷりとかかったティラミスタルト →アイスコーヒーやクラブハウスサンドも人気です



インタープリターズ・第187回 バイブル

総合文化研究科客員教授
科学技術インタープリター養成部門 **青野由利**

論文じゃないんだから

「論文書いてるんじゃないんだから」

今から40数年前、新聞社に入社し、研修を終えて配属された支局のデスクに言われた一言だ。

大学での専攻は薬学だった。それでなぜ新聞社へ？という疑問は置いておくとして、最初は警察回りや地域の街ダネを書くところからのスタート。いったい何がニュースなのか、何が記事になるのか、さっぱりわからず、警察官がせつかくウイスパーしてくれたネタも、「？」と思ったまま、数日後、他紙に抜かれていた。

そんな中で言われたデスクの一言が、どんな原稿への苦言だったかはすっかり忘れてしまった。ただ、その時、少しムツとした記憶がある。「論文のように正確に書くことの何が悪いの？」という気分だったはずだ。

以来、一般記事、解説記事、インタビュー記事、連載、社説、コラムなどさまざまな記事を書き続けてきた。入社5年目からは科学担当として、論文を読み、学会をカバーし、研究者や官僚に取材する日々。

その中で、「科学コミュニケーションとは何か」を立ち止まって考えたことは、たぶん（申し訳ないけれど）一度もない。それより、限られた時間で、締め切りに間に合うように、過不足なく記事を書く、ということが至上命令だった。

気が付けば「論文じゃないんだから」は、当たり前になっていた。それどころか、取材先に「新聞は論文じゃないので」と言いかけたことさえある。

何が違うのか。いろいろあるが、当然のことながら読者が違う。論文の主たる読者は同じ分野の研究者で、専門用語も、書き方の作法も、知識も考え方も共有している。「この話が通じるか」と悩むことは少ないだろう。

新聞はそうはいかない。読者は科学に馴染みのある人ばかりではない。論文と同様の正確さにこだわってはいは、まったく通じない。「読者に伝わらなければ書かなかったことと同じなんです」と取材先を説得したこともある。

かといって、正確さは二の次というわけではない。誰が読者なのかを念頭に、正確さとわかりやすさのバランスをいかに保つか。鍛錬は今も続いている。

実は、研究者の中にもそのバランスが優れている人たちがいる。私の経験上、そういう人は、研究者としても優れていることが多い。それは何故？ については、また別の機会に。

科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp>

ききんの **き**

寄付でつくる東大の未来

第41回

本部渉外課
会計チーム **松田恵理菜**

リコさんと学ぶ古本募金



もうすぐ迎える新年度。リコさんと一緒に古本募金について紹介します。東京大学基金公認の非公式twitterアカウント(@riko_todaikikin)のリコさんは日々東大や寄付に関する情報を発信しています。特技は本郷の銀杏並木に擬態すること。趣味は冒険。

リコさん UTokyo Portalで古本募金のお知らせを見たんですけど、詳しく教えてくれないかしら？

松田 興味を持っていただきありがとうございます。古本募金には、これまで1,195,774冊の本をご寄付いただきました。本は、運営会社のバリューブックスに買い取られ、社会に還元されるとともに、買い取り金額が東京大学の寄付となり教育・研究に役立てられています。

リ 私ちょうど冒険小説を読み終えたところよ。どうやって寄付したらいいの？

松 charibon (チャリボン) のWebページ (<https://www.charibon.jp/partner/u-tokyo/>) で集荷依頼する

ほか、学内の古本募金ステーション (写真) で直接投函もできます。各図書館 (総合、柏、駒場、農学



生命科学)、本部棟7階にありますよ。ステーションには、年間に約500冊のご寄付があります。寄付者の皆様と図書館職員の方々に改めて御礼申し上げます。

リ 実家にある古い本も寄付できるのかしら？

松 はい、charibonからお申込み下さい。原則、ISBNがあり、出版が2010年以降の本はすべて対象です。

リ 退職する先生から「研究室の本を寄付したい」という相談を受けたわ。大量だからもっと簡単に寄付できないかしら？

松 本の仕分けが面倒！Webでの申込が面倒！という声にお応えし、昨年からは本部にて学内回収キャンペーンを行っています。キャンペーン時は、ISBNがあれば出版年が古い本も受付可能です。実は、大学で活用されていた本は、古くなくても価値が色褪せず、高く買取りされるものが多いのです (charibonの平均買取額89円、東大で回収された本の平均買取額302円)。キャンペーンは大変好評で、昨年は約1,200冊のご寄付がありました。異動や退職、居室整理で大量の本があるときは、ぜひご活用いただきたいです。

リ 本部が回収してくれるのね。とっても便利だわ〜！次のキャンペーンはいつかしら？

松 毎年3月と11月頃に実施しています。詳細はUTokyo Portalをご覧ください！

リ みなさんも、自宅、研究室、事務室に眠っている本を、社会に還元してみたいかしら？

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル（一部省略している場合があります）
2月8日	本部広報課	令和4年度退職教員の最終講義3月開催分のお知らせ
2月8日	本部国際研究推進課	令和5年度東京大学-フランス国立科学研究センター共同研究プログラムの実施
2月8日	生産技術研究所	電通大と東大の提案が東京都の大学研究者による事業提案制度に採択
2月9日	本部渉外課	内田洋行とネーミングプランの協定を締結
2月9日	本部広報課	令和4年度退職教員の紹介
2月9日	本部広報課	トルコ・シリア大地震について（藤井総長メッセージ）
2月10日	理学系研究科・理学部	菅裕明教授（理学系研究科）のウルフ賞化学部門受賞が発表されました
2月10日	グローバルリーダー育成プログラム推進室	グローバルリーダー育成プログラムGLP-GEFILの第6回修了式を開催
2月13日	総合文化研究科・教養学部	地域文化研究専攻の雷婷さんがSaboochi I.Khan賞を受賞
2月17日	総合文化研究科・教養学部	国際社会科学専攻の馬路智仁准教授が第19回日本学術振興会賞を受賞
2月22日	広報室	軍事・安全保障研究から見るロシア・ウクライナ戦争
2月24日	大学総合教育研究センター	東京大学フューチャーファカルティプログラム第20期履修証授与式を開催
2月28日	本部入試課	新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会の確保について
2月28日	グローバルキャンパス推進本部、本部国際研究推進課	“2023 Princeton day at UTokyo”を開催
2月28日	広報室	哲学と科学の対話 東京フォーラム2022開催
3月3日	史料編纂所	『言継卿記』の重要文化財指定について
3月8日	本部協創課	第3回 Beyond AI国際シンポジウム 動画を公開
3月9日	本部社会連携推進課	2022年度 体験活動プログラム報告会を開催
3月9日	広報室	AIの「便利さ」と「倫理・安全性」を両輪として追求/Entrepreneurs 19
3月10日	本部入試課	令和5年度前期日程試験及び外国学校卒業学生特別選考合格発表
3月10日	情報学環・学際情報学府	「戦災・災害のデジタルアーカイブ基金」の設置
3月10日	生産技術研究所	東大生研ONGとJALによる教育活動が日本OR学会「普及賞」を受賞
3月10日	公共政策大学院	PwCコンサルティングと政策変革や地方創生に向けた共同研究を開始
3月10日	広報室	トルコ・シリア地震と情報のデザイン
3月13日	本部人事企画課	「令和4年度東京大学卓越研究員（公募型）」8名を決定
3月13日	本部広報課	広報誌「淡青」46号を発行



CLOSE UP 2022年度体験活動プログラム報告会を開催

（本部社会連携推進課）



9名のプログラム参加学生が司会、受付、タイムキーパーなどで会の運営に参加しました。

3月6日、伊藤謝恩ホールで体験活動プログラム報告会を開催しました。藤井輝夫総長の挨拶の後、「特別功労賞」の授与が行なわれ、神奈川県三浦市様、在韓東京大学総同門会様、ソウル東大会様、島根県益田市様が受賞されました。続いて、「自ら考える地域活性化策を実践する旅～富山県砺波市～」[ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション]

「アラブ首長国連邦の「いま」[先端的蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験]「帰還困難区域の「街づくり」を考える。」の5プログラムに参加した学生が、活動から学んだこと等を報告し、関係者の方からは受け入れた感想やメッセージをいただきました。最後に津田敦 執行役・副学長より関係者への感謝の言葉が述べられました。

表紙について

今号の表紙は、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」の補助金を受けて実施する「UTokyo男女+協働改革#WeChange」のロゴマークです。構成員の意識改革、院生からシニアまでのシームレスな女性研究者キャリアアップ、そして女性教員の加速的増加という三つの目標に向けた活動のシンボルです。

3月1日には、この事業に全学で取り組むことを内外に宣言し、今後のビジョンを議論する機会として、国際シンポジウムを開催しました（オンライン配信）。第1部では藤井輝夫総長とお茶の水女子大学の佐々木泰子学長が「グローバルリーダーの育成に向けて」をテーマに対談し、第2部ではNPO法人代表、学内の若手研究者、学部生、大学院生、理事・副学長の5人が登壇して「数のパワー」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



シンポジウムは伊藤謝恩ホールから配信され、学内外から200人以上の参加がありました。



CLOSE UP 菅裕明教授のウルフ賞化学部門受賞が決定

(理学系研究科・理学部)



ウルフ賞化学部門の受賞は、本学では2018年の藤田誠卓越教授に続き2人目となります。

2月8日、化学専攻の菅裕明教授がウルフ賞の化学部門を受賞することが発表されました(シカゴ大学のChuan He教授、スク립ス研究所のJeffery W. Kelly教授も受賞)。今回の受賞決定は、菅教授の「生物活性ペプチドの創製を革新するRNA触媒の開発」に関する業績が認められたものです。菅教授は、既存のペプチド医薬品開発の常識を覆す「特殊ペプチド創薬」という概念を提唱し、望みの生物活性を示す薬剤候補ペプチドを生み出す技術の開発に成功しました。本技術は、近年隆盛を極めるペプチドを基盤とした中分子医

薬品研究の先鞭となりました。実際に関連技術は世界各国の大手製薬企業に技術移管され、社会実装が進んでいます。「この賞は私だけではなく、菅研究室の歴代のメンバー全員が受賞したものです。彼ら彼女らの何時間、何日、何年にもわたる研究への献身的な努力がなければ、このような評価を受けることはできなかったと思います。このような機会を与えてくれた、私の研究室のすべての人々、家族、友人、同僚に感謝したいと思います」と菅先生はコメントしました。授賞式は6月15日にイスラエルで執り行われる予定です。



CLOSE UP 所蔵史料『言継卿記』が重要文化財に指定されました

(史料編纂所)



「言継卿記」第1冊 大永7年記(巻首): 現存する日記の最初の部分。記主の言継はこの時21歳。

2022年11月18日、国の文化審議会は史料編纂所所蔵『言継卿記(ときつぐきょうぎ)』35冊を重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申をおこないました。『言継卿記』は戦国時代の貴族山科言継(1507~1579)の日記で、大永7年(1527)から天正4年(1576)のうちの40年分が自筆原本35冊によって伝わります。史料編纂所はこのうち34冊(大永7年記が分冊されたため、現在は35冊)を所蔵し、残る天正4年記1冊(江戸時代に菊亭家に入り、現在京都大学附属図書館が所蔵)について、享保8年(1723)に書写した1冊が付属しています。この日記によって、戦国時代の朝廷や室町幕府の状況、上洛した織田信長の動静、さらには社会・経済・文化の諸相を知ることができます。また言継が駿河に下向していた時期に書かれたものを除き、ほぼ全紙に紙背文書が存在し、多様な人びとの手になる文書が2,800通以上残っています。『言継卿記』の原本画像については、史料編纂所の所蔵史料目録データベース(Hi-cat)より表裏両面の閲覧が可能です。

館が所蔵)について、享保8年(1723)に書写した1冊が付属しています。この日記によって、戦国時代の朝廷や室町幕府の状況、上洛した織田信長の動静、さらには社会・経済・文化の諸相を知ることができます。また言継が駿河に下向していた時期に書かれたものを除き、ほぼ全紙に紙背文書が存在し、多様な人びとの手になる文書が2,800通以上残っています。『言継卿記』の原本画像については、史料編纂所の所蔵史料目録データベース(Hi-cat)より表裏両面の閲覧が可能です。



CLOSE UP GLP-GEFILの第6回修了式を開催

(グローバルリーダー育成プログラム推進室)



理事・副学長の林香里・相原博昭・太田邦史教授からそれぞれ式辞が述べられました。GLP-GEFIL修了生は累計303名に。

1月27日、後期課程の学生を対象としたGLP-GEFILプログラムの第6回修了式が行われました。担当理事・副学長の林香里教授より55名の修了生一人ひとりに総長名での修了証が手渡されました。本プログラムにご支援をいただいている寄付企業6社より、11名にご参列いただき、東京大学GLPリーディング・パートナーの住友商事サステナビリティ推進部長の麻生浩司様よりご祝辞を頂戴しま

した。修了生からの答辞は、修了後にアラムナイ役員を務める童菲さんと佐藤航平さんが行いました。修了生を祝うため、先輩も駆けつけてくれました。コロナ禍で海外プログラムの渡航見通しが立たない中で履修を開始し、2回目の海外プログラムでやっと一部が渡航できた学年の皆さんです。互いに刺激しながら学んだ仲間と久しぶりに対面で集う喜びを感じられる良い機会となったようです。



CLOSE UP 広報誌『淡青』46号を発行(広報室)

表紙は小石川植物園のメタセコイア林です。



今号の特集は「GX入門/身近な疑問vs東大」です。お届けするのは、「なぜ?」「ホント?」から始まるGreen Transformation関連のQ&A。気候変動にCO₂回収、ペットボトルにカーボンプライシング、培養肉から昆虫食まで、普段は意識せずとも実は多くの人々にとって身近なはずのテーマを疑問形式に整理し、その分野に詳しい先生を選んで専門分野の観点から答え

てもらいました。環境問題に取り組む学生サークルの皆さんと長期気候政策研究者による座談会企画もあり。「人新世」に生きる誰しもが他人事にはしておけない質問を足がかりに、GXと研究者の世界を覗いてみませんか。連載「キャンパス散歩」は目白台インターナショナルビレッジの巻。「東大校友会ニュース」には東大と農の未来図を描く卒業生が登場しています。

令和5年度 学内広報 配布スケジュール

1569号	4月28日	1570号	5月31日	1571号	6月30日	1572号	7月31日	1573号	8月31日	1574号	9月29日
1575号	10月31日	1576号	11月30日	1577号	12月27日	1578号	1月31日	1579号	2月29日	1580号	3月29日



木を見て森も見て

私は東南アジアの多民族国家マレーシアの出身です。マレーシアの大学を卒業後、ウイルス学、感染症学を学ぶために文部科学省の奨学生として2003年4月に来日しました。

日本で過ごした約20年で様々な出来事や変化がありました。医学の分野もインターネットの普及やデジタル化により、情報伝達や技術習得が加速化しました。つい10年ほど前までは、一つの技術を習得するのに十数年かかり、研究課題を深く追求することがスタンダードでした。しかし新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ワクチンは、開発各国の誇るスーパーコンピュータ等を駆使して、わずかな期間で実用化しました。そのスピードに世界中の研究者が新たな時代の幕開けを感じた事と思います。

迅速性・簡便性・効率性が重要視されている中で、ウェット実験（研究者が生物学的な実験を行う領域）は、成果になるまで時間がかかります。ウェット実験だけでは迅速な結果が出にくいという課題が出てきており、ま

た中小規模のラボでは、迅速性・効率性・予算面において十分な体制をとることが難しくなりつつあります。

COVID-19ワクチン開発のように、各国政府主導、国同士の連携など、大規模な組織が一連の開発をおこなえば、迅速に実用化することができますが費用は増大します。医学分野もグローバル化の進展によって、大規模組織のアンバンドリング、中小ラボ同士の連携、国際的な協力等は必要不可欠で、これまで以上に世界規模で問題を解決することが求められてきています。

来日した2003年当時からでは研究方法や環境は大きく変わりました。「木を見て森も見て」、迅速性・効率性・精度・品質等のバランスを保ちながら、時代に合った新しい技術も取り入れ、国際社会に貢献できる研究をおこなっていきたくと考えています。

モイメンリン
(医学系研究科)

